

平成14年2月13日(水) 社会保障審議会児童部会報告

子どもを取り巻く状況の変化と子どもの現状

山崎 高 哉(京都大学)

今日及び今後の子どもをめぐる状況は先行き不透明で、過去の経験では測り得ない多くの未知との遭遇をもたらすものとなるであろう。まず最初に、今日及び今後の子どもを取り巻く状況の変化に簡単に触れ、その後、子どもの健全育成を図るために踏まえておくべき子どもの現状について、特にその否定的な側面を中心に概観してみたい。

1 子どもを取り巻く状況の特徴

(1) 小家族化、少子・高齢社会化

- ① 親の子どもに対する過保護、過干渉→しつけ不在、塾通い・習い事の増加
- ② 兄弟姉妹数・同年齢・異年齢仲間集団の減少
- ③ 共働き家庭、一人親家庭の増加→「留守家庭児童」の増加
- ④ 子どもと高齢者との交流不足

(2) 都市化・過疎化の進行

- ① 地域社会における人間関係の希薄化→連帯感、地域活動・行事等への関心の弱体化、地域社会の教育力や非行抑止力の低下
- ② 遊び場、地域社会における居場所の喪失
- ③ 血縁・地縁集団の弱体化

(3) 消費社会化・私事化

- ① 自分中心・「私」優先社会→「滅公奉私」
- ② 「豊かな社会」→階層社会化？

(4) 価値観の多様化・多元化

- ① 価値基準・規範意識の揺らぎ
- ② ニヒリズム→シラケ・無気力の蔓延

(5) 地球化・国際化、IT革命の一層の進展

- ① 国際交流の機会の増大
- ② メディア社会化→フィーリング社会化
- ③ 労働時間の短縮→自由時間の増大、生涯学習活動の充実

2 子どもの現状 — 否定的側面を中心に

(1) 自立性の欠如

- ① 自制心の未発達な子どもの増加←甘やかし、しつけ不在
 - (a) 人の話が聞けない、集団の決まりが守れない、衝動的
 - (b) 基本的な生活習慣、生活リズムの欠如
 - (c) 集中力・忍耐力不足
- ② 自尊感情の持てない子どもの増加←過干渉、虐待、過剰期待、養育不在
 - (a) 自己評価が低く、劣等感が強い
 - (b) 基本的信頼感の欠如、人間に対する不信感が強い
- ③ 自我の確立の未熟な子どもの増加

- (a) 個性・独創性の未発達
- (b) 自己イメージ肥大→ナルシスティック
- (2) 社会性、対人関係能力の未発達
 - ① 自己表現力・コミュニケーション能力の低い子どもの増加
 - ② 対人関係がうまく結べない子どもの増加←少子化、都市化、情報化
 - (a) 濃密な人間関係より「就かず離れず」の人間関係に快適さ
 - (b) 対面的コミュニケーションよりメディアを介したコミュニケーション→「メル友ブーム」
 - (c) 異年齢の人々との付き合いが苦手
 - ③ 他者理解や思いやりの不足した子どもの増加
- (3) 遊び・自然・生活体験の単調化・貧困化←都市化、情報化、「遊ばせない親」
 - ① 外遊びや仲間・集団遊びの機会の少ない子どもの増加→遊びの室内化・孤立化→子どもの(生活の)孤立化→ソーシャル・スキルの訓練不足
 - ② 遊びを金で買って遊ぶ子どもの増加→遊びのレジャー産業化
 - ③ 直接経験に欠ける子どもの増加→間接及び疑似体験の増加→「メディア人間」、想像力の貧困、現実感覚の衰退
 - ④ 生産・創造活動の不足した子どもの増加→子どもの「完全消費者」化、創造力、責任感の低下
 - ⑤ 感動体験、没頭体験の少ない子どもの増加→「夢も希望もない」人生・社会→無気力、「学校嫌い」も
- (4) 自分中心主義の蔓延
 - ① 自己中心児、「ジコチュウ児」の増加←「ジコチュウ親」／「自子主義」
 - ② 社会・公共的なものへの無関心な子どもの増加→傍観者意識、シラケ・無気力の蔓延、公德心、責任感の欠如
 - ③ 価値・規範意識の低い子どもの増加→善悪の基準の曖昧化→いじめ、学級崩壊、対教師暴力、非行等
- (5) 現在享楽志向の増大
 - ① 個人の利害・損得・物質的価値、快楽を優先させる子どもの増加→真摯な努力の軽視
 - ② 「モヤモヤ」・「イライラ」感をため込んだ子どもの増加→ストレス状況→非行・問題行動
 - ③ メディア(テレビ、テレビゲーム、ビデオ、携帯電話、インターネット)の影響に過敏な子どもの増加→仮想と現実の区別曖昧→非行、犯罪の一般化
- (6) 「新エゴイズム」の誕生? 梶千石保著『新エゴイズムの若者たち ― 自己決定主義という価値観』、PHP新書、2001年12月